



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net



居場所広間からの雪景色

待ちに待ったクリスマス会！

12月22日(金曜日)は、「あと何日だね…」と日にちを数えながら、親子で楽しみにしていたクリスマス会でした。

ゲーム、音楽、ケーキでのお祝いなど、ふだんの「なんとなくのにお」とは一味違う、特別な日になりました。

いちばんのハイライトは、子どもたちとスタッフのみなさんがアイデアを出し合って決めた「なんにお特製・たこ焼き作り」でした。「タコ抜きね！ エビも…、イカも…」と、魚介類なしのメニューも考え、お餅やチーズ、ひき肉など、みんなの好きな具材で、とても美味しいたこ焼き(明石焼き?)が仕上がりました。トッピングの明太子も、おしゃれなアイデアでした。

たこ焼き器を囲みながら協力して作る子どもたちの様子が微笑ましく、回を重ねるごとに上達する腕前に、みんな大きな喜びを感じたのではと思います。

この日は保護者たちの楽しいおしゃべりの時間もあり、おとなにとっても子どもにとっても素敵なひとときになりました。スタッフのみなさん、どうもありがとうございました！(島村)

クリスマス会当日、子どもも大人もたくさん参加していただいて、大にぎわいでした。子どもたちが考えた、たこ焼き作り、タコの代わりにお餅やチーズ、ウィンナーなどの具材を切るところからスタート。生地を混ぜる人、焼く人、具を入れる人、それぞれのチームワークが抜群で、次から次へと美味しかったたこ焼きが出来上がっていました。一方、別の部屋からはギターの音色と歌声が聞こえてきたりと思い思いになんとな〜く過ごす、なんにわらしいクリスマス会になったのではないのでしょうか。(丸本)

つつい歌や楽器に夢中になり(新しいキーボードも活躍しましたよ)、おいしいたこ焼きをいただき、お茶の間ではいろんな話に花が咲き…、あれ、写真を忘れた、というわけで、クリスマス会の画像はNさんの撮った「たこ焼き作成中」の1枚だけ。日差しは低いけれど、暖かな金曜日、冬至の午後パーティでした。(手塚)



子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時：毎月第2月曜日(午前10時~12時)

次回の予定はお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(Tel: 090-3227-7079)

目次

待ちに待った クリスマス会！	1
勉強会予告：特別支援教育 学校現場での工夫	2
放射能測定	2
活動報告	3
オランダへようこそ	3
こんな本はいかが？	4

居場所のひとこま

いつもより寒さが厳しい今年の冬。水道や湯沸かし器の凍結トラブルに悩まされました。報徳会館時代、雪が降ると家の反対側にある元栓を締めに行くのがたいへんだったことを思い出します。寒さで雪が溶けず、窓から雪景色をみる期間が長かった気もしますが、ここ数日は日差しが明るくなり、春を感じる時期になったと感じます。(N)



特別支援教育・学校現場での工夫、あれこれ... ~アイデアグッズの紹介もあります~



3/24 (Sat)

日光市民活動支援センター

講師：石山 博幸 さん

千葉県教育庁葛南教育事務所
特別支援アドバイザー
東邦大学理学部非常勤講師
元船橋市立小学校校長

日時：2018年3月24日（土）

午後2時～4時

場所：日光市民活動支援センター

〒321-1261 日光市今市304-3
0288-22-2271

定員：50名

参加費はありません。

主催：NPO法人 なんとなくのになわ

後援：日光市教育委員会

1. 千葉県葛南教育事務所管内の小・中・高等学校を巡回して
2. 子どもの困っている行動を減らすためのほめ方・叱り方・ことばかけ
3. 見て、さわって
~小道具(特別支援グッズ)の紹介~

石山さんより：

特別支援アドバイザーは千葉県で20名、葛南教育事務所（市川市・船橋市・習志野市・八千代市・浦安市）には5名勤務しています。

公立幼稚園、小・中学校、高等学校において、障害のある子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の在り方を考え、教職員・特別支援教育支援員・ボランティア等に対し、助言・援助を行う立場にある非常勤職員です。

学校心理士とガイダンスカウンセラーの資格を取得後、2014年度から勤務して4年目になります。各種研修会に進んで参加し、具体的な助言・援助を心がけています。

今までの経験から、支援が必要な子どもたちへの「ほめ方・叱り方・ことばかけ」や、「こんなものあるよ」という小道具を紹介します。

4年目の放射能測定（1）

なんとなくのになわ・環境研究班

「3年目の放射能測定」、2回連載の続きです。前号はお休みのため、年が明けて「4年目」となりました。今後も継続して、放射能・放射線についてレポートしていきたいと思えます。

今市周辺で2011年3月時点の状態が保たれている土壌（地表から5cm）を採取し、天日で乾かし、放射性セシウムの濃度を測ると、1キログラムあたり500から1000ベクレルの数値を示します。福島原発事故によって飛散した放射能は、7年が過ぎようという今も地表に残っているのです。

大沢の庭に生えているブルーベリー果実の放射能値が手元にあります。2012年：24ベクレル/kg（日光市放射能測定）、2014年：15ベクレル/kg。昨年、今年と放射能量はさら

に減る傾向にあり、環境研究班の持つCD211測定器の検出限界10ベクレル/kgを下回っています。放射線エネルギーのグラフ表示をよく見ると、ほんのわずかに放射性セシウムの信号を捉えています。気にせず食べることのできるレベルだと考えますが、子どもには注意が必要です。原発事故を知らずに木の実をついばんでいる野鳥の被ばくも心配です。

放射性セシウムは2種類あり、半減期2年で早く崩壊する成分は約80%が消滅しました。いっぽう、半減期30年の成分はまだ消えません。ブルーベリー果実の放射能濃度が減少しているのは、放射性セシウムが土の成分に付着し、植物にとって吸収しにくい状態になっているのだろうという研究があります。日光地区で土壌の放射性セシウム濃度が100ベクレル/kgに下がるのは100年後。今年も放射能・放射線量測定を続けていきたいと思えます。（三上、手塚）

- 10月31日(火) 通信「なんとなくのひろば・第49号」発行
- 11月6日(水) 理事会(第80回)
- 11月11日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 11月12日(日) ベリー会: 月例会
- 11月13日(月) 茶話会(第79回)
- 11月25日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 12月1日(金) ワカモノフェスタパンフレット印刷
- 12月2日(土) ワカモノフェスタ前日準備
- 12月3日(日) ワカモノフェスタ(サイエンス・カフェ@ワカフェス ミニPCであそぼう!)
- 12月11日(月) 茶話会(第80回)
- 12月18日(月) 発達相談訪問(市教委: 帷子先生)
- 12月22日(金) 居場所「クリスマス会」(参加者: 19名(利用者・保護者14名、スタッフ5名))
- 12月24日(日) ベリー会: 学習会
- 1月10日(水) 理事会(第81回)
- 1月21日(日) ベリー会: 月例会
- 1月27日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 1月31日(水) いのくら児童クラブ「星を見る会」に協力(冬の星、月食について)

1月31日は
皆既月食がありました。
次は7月28日



——— お知らせ ———
第5回
多様な学び実践研究フォーラム
 2018年2月24-25日/早稲田大学
 主催・お問合せ
 多様な学び保障法を実現する会
 NPO法人フリースクール全国ネットワーク
 イベントの賛同団体として参加しています。
 詳しくは以下のアドレスをご覧ください。
<http://aejapan.org/aeforum/>

さくらそう関連の勉強会など

- 平成29年度相談支援専門員連絡会(毎月第4水曜日 午後2時より)に参加しています。
- 11/29 アルコール依存症について
- 12/27 交流会・家族信託について
- 1/16 地域包括支援センター主任ケアマネと合同会議
- 県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会
- (第4回)12月8日(金) 栃木県立特別支援学校 宇都宮青葉高等学園 見学
- (第5回)1月17日(水) 地域生活支援拠点の見学・モチベーションアップ法の演習

オランダへようこそ

エミリー・パール・キングスレイ

私はよく「障がいのある子を育てるのってどんな感じ?」と、聞かれることがあります。そんな時私は、障がい児を育てるというユニークな経験をしたことがない人でも、それがどんな感じかわかるようにこんな話をします。

赤ちゃんの誕生を待つまでの間は、まるで、素敵な旅行の計画を立てるみたい。
 例えば、旅先はイタリア。山ほどガイドブックを買いこみ、楽しい計画を立てる。
 コロシウム、ミケランジェロ、ダビデ像、ベニスのゴンドラ。
 簡単なイタリア語も覚えるかもしれない。とてもワクワクします。
 そして、何か月も待ち望んだその日がついにやってきます。
 荷物を詰め込んで、いよいよ出発。数時間後、あなたを乗せた飛行機が着陸。
 そして、客室乗務員がやってきて、こう言うのです。
 「オランダへようこそ!」
 「オランダ!?!」
 「オランダってどういうこと??」
 私は、イタリア行の手続きをし、イタリアにいるはずなのに。
 ずっと、イタリアに行くことが夢だったのに」
 でも、飛行計画は変更になり、飛行機はオランダに着陸したのです。あなたは、ここにいないではありません。
 ここで大切なことは、飢えや病気だらけの、こわくてよごれた嫌な場所に連れてこられたわけではないということ。ただ、ちょっと「違う場所」だっただけ。
 だから、あなたは新しいガイドブックを買いに行かなくちゃ。それから、今まで知らなかった新しいことばを覚えなくてね。
 そうすればきっと、これまで会ったことのない人たちとの新しい

出会いがあるはず。
 ただ、ちょっと「違う場所」だっただけ。
 イタリアよりもゆったりとした時間が流れ、イタリアのような華やかさはないかもしれない。
 でも、しばらくそこにおいて、呼吸をととのえて、まわりを見渡してみると、オランダには風車があり、チューリップが咲き、レンブラントの絵画だってあることに気付くはず。
 でも、まわりの人たちは、イタリアに行ったり来たりしています。そして、そこで過ごす時間がどれだけ素晴らしいかを自慢するかもしれないのです。
 きっと、あなたはこの先ずっと「私も、イタリアへ行くはずだった。そのつもりだったのに。」
 と、いうのでしょう。
 心の痛みは決して、決して、消えることはありません。
 だって、失った夢はあまりに大きすぎるから。
 でも、イタリアに行けなかったことをいつまでも嘆いていたら、オランダならではの素晴らしさ、オランダにこそある愛しいものを、心から楽しむことはなかったでしょう。
 みんなとは違う土地だけど、私はオランダを思い切り楽しんで、そして大好きになりました。
 オランダへようこそ!

◇ 居場所スタッフより、「観ていたドラマの中で紹介され、久しぶりの感動を味わいました。ぜひ通信にのせてください」と依頼があった詩です。



こんな本はいかが？

その40: オノマトペ絵本

今回は、オノマトペ(擬音・擬態語)絵本を紹介します。オノマトペとは、「カチカチ」とか「のそのそ」など、音や状態を表す言葉を言います。子どもは、「音」の繰り返しや楽しいリズムが大好きです。赤ちゃんはもちろんのこと、小学生の子どもたちにとっても、オノマトペ絵本の読みあい遊びは、子どもの感覚を刺激すると言われています。

◎ 「もこ もこもこ」

谷川俊太郎・作 元永定正・絵 文研出版 2004年

谷川さんの絵本には、言葉のリズムのおもしろさがいつもあふれています。ある高校の先生が高校生に読み語りしたところ、「絵本なんて・・・」と初めは興味を示さない生徒が、途中から、「あっ、爆発するぞ！」と身を乗り出したそうです。擬音だけの絵本なのに、何かが刺激されたのでしょうね。

◎ 「だっだあー」 ナムーラミチヨ・作 主婦の友社 2004年

これは赤ちゃんの言葉遊び絵本です。作者のナムーラミチヨさんによれば、読み手が調子をつけたり、声色をかえたり、顔遊びもしながら、自由に盛大に楽しんでほしいと書いています。

私もある研修会で、講師の先生がそれはそれは楽しい口調で読んでくれたのを聞いたことがあります。実際にこの本を手にしたら、楽しい口調で読みたくなるのです。赤ちゃんと楽しくおしゃべりしたいものです。

◎ 「がたごと なにかな？」 「ぴよんぴよん なにかな？」

高信男・作 あきやまただし・絵 すずき出版 2004年

この2冊は、赤ちゃんへの語りかけ絵本です。「ぴよんぴよん」の方は、手と指を使った影絵遊びの本です。手と指がすばらしい遊び道具になるのです。

そのほかに

◎ とよたかずひこ／作・絵 ももんちゃん あそぼうシリーズ

うららちゃんののりものえほんシリーズ

とよたさんの絵本は、乳幼児向けのものが多く、擬音もたくさん使われていて、温かいお話がいっぱいです。(白井)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：56
賛助会員：19
団体会員：4
入会金はありません。
年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしくお願ひします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

法律や常識が技術の進歩に追いつかないのは、今に始まったことではありません。電気メータを通さずに電気を使うのは泥棒。今では誰もがそう考えます。けれど、日本で電気の普及が始まった1900年頃には当然のことではなかったようです■電気は見えないし形もないから「物」とはいえない。盗んでも窃盗にはならない。そんな主張が裁判で争われたという記録があります。その後、1907年(明治40年)の刑法改正で「電気は物」という記述が追加されたそうです。いまマスコミをにぎわせている仮想通貨取引所の巨額流出問題を聞いて、電気泥棒の話思い出しました■報道によれば、何者かが取引所のセキュリティを破り、多額の仮想通貨を複数の口座に移動させた。お金はネット上の誰かの財布(もちろん持ち主以外の)に入金されている。仮想通貨は暗号で守られ流通経路はシステム監視下にある。電子的に施錠された状態なので誰も取り出すことができない…■昨年末には別の仮想通貨でプログラムの不具合があり、取引ができなくなるという問題が起きました。さてこのような場合、何が犯罪で何が犯罪ではないのだろうか。変動が大きい仮想通貨が関係した被害額というのはどう計算するのだろうかなどなど気になることは多い。これらの事件も100年後には「こんなことがあったよ」と話されるエピソードなのでしょう。(T)